

福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ

(日報：平成 24 年 5 月 29 日)

平成 24 年 5 月 29 日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

福島第二原子力発電所では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波の影響により、1, 2, 4 号機において原子力災害対策特別措置法の規定に基づく該当事象が発生し、同年 3 月 12 日、内閣総理大臣による原子力緊急事態宣言が発出されました。

その後、電動機等の復旧や残留熱除去ポンプの機能回復等の緊急事態応急対策を実施し、同年 3 月 15 日までに全号機で冷温停止を達成しました。

以後、同対策を継続して実施し、電源供給機能や残留熱除去機能の多重化を図るなど、プラントの安定的な冷温停止の維持に努めた結果、同年 12 月 26 日、内閣総理大臣により当所の原子力緊急事態解除が宣言され、原子力災害対策特別措置法に基づく原子力災害事後対策の実施段階に移行しました。

同対策を実施するにあたり、原子力事業者防災業務計画に基づく復旧計画を策定し、平成 24 年 1 月 31 日、経済産業大臣、福島県知事、楡葉町長、富岡町長に提出しました。

今後、本計画に基づき、プラントの冷温停止維持に係わる設備等の復旧を進め、さらなる信頼性向上に努めてまいります。

本日午後 3 時現在のプラント状況等について、別表および下記のとおりお知らせします（下線部が新規事項）。

○2号機原子炉格納容器内の目視点検完了について

- ・2号機については、平成 24 年 3 月 6 日に所員用エアロックを開放し（平成 24 年 3 月 6 日お知らせ済み）、格納容器及び格納容器内の設備の外観目視点検を実施してまいりました。
- ・本日（5/29）までに、目視点検が完了し、その結果、原子炉冷却材の漏えいがないこと、また、格納容器内の各設備・機器・配管等に大きな変形・損傷等はなく、冷温停止機能に影響を及ぼすものはなかったことを確認しました。
- ・なお、冷温停止に至るまでの一時的な高温・高湿環境等により、一部機器表面の塗装面のはがれや錆等、軽微な影響は見られたものの、いずれも冷温停止機能に影響を与えるものではありませんでした。
- ・本日の2号機をもって、1～4号機の格納容器内の目視点検が完了しましたが、いずれにおいても、冷温停止機能に影響を及ぼすような変形・損傷等はなかったことを確認しました。

<他号機の点検実績>

1号機 平成23年12月27日 ～ 平成24年2月28日 [目視点検完了]

3号機 平成24年2月14日 ～ 平成24年4月5日 [目視点検完了]

4号機 平成23年8月29日 ～ 平成23年12月21日 [目視点検完了]

添付資料：2号機原子炉格納容器内の目視点検結果

以 上

福島第二原子力発電所 プラント状況（平成24年5月29日 午後3時現在）

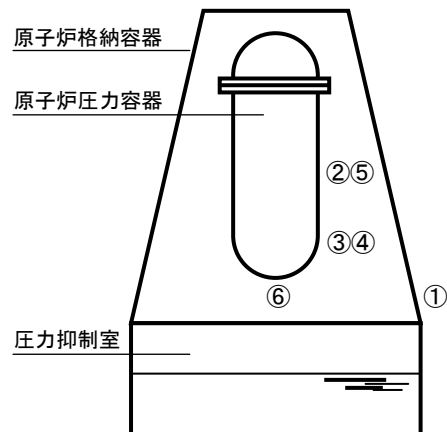
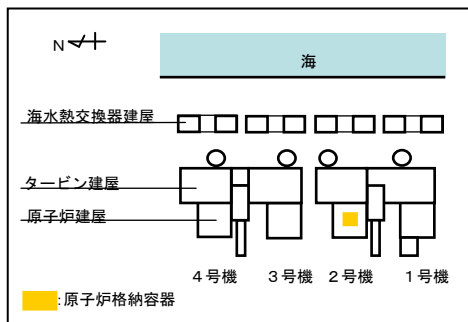
別表

		1号機	2号機	3号機	4号機	参 考
原子炉の冷却	原子炉の状態	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	●冷温停止とは、原子炉水の温度が100℃未満で原子炉が未臨界の状態をいう。 ●左記の水温は午前6時現在の温度。
	原子炉水の温度	24.1℃	27.5℃	28.1℃	26.5℃	
	残留熱除去系（A）	待機中	待機中	待機中	運転中	●残留熱除去系1系列と原子炉冷却材浄化系にて原子炉の冷却を行っている。 ●原子炉冷却材浄化系は、原子炉水を浄化する装置だが、原子炉の冷却機能も有する。残留熱除去系2系統が停止したとしても、本系統により、原子炉の冷温停止状態を安定的に維持することが可能。
	残留熱除去系（B）	運転中	運転中	運転中	待機中	
	原子炉冷却材浄化系	運転中	運転中	運転中	運転中	
使用済燃料プールの冷却	燃料プール冷却浄化系	運転中	運転中	運転中	運転中	●使用済燃料プールの水温を65℃以下に保つよう、燃料プール冷却浄化系で冷却している。 ●左記の水温は午前6時現在の温度。
	使用済燃料プール水の温度	27.4℃	29.8℃	28.7℃	24.0℃	
外部電源		受電有	受電有	受電有	受電有	●当所の外部電源は、富岡線1号・2号（500kV系）、岩井戸線1号・2号（66kV系）の4回線がある。
非常用電源	非常用ディーゼル発電機（A）	復旧作業中	待機中	待機中	待機中	●外部電源喪失時のバックアップとして、非常用ディーゼル発電機2台が動作可能な状態を確保している。なお、非常用ディーゼル発電機は、複数の号機で共用することが可能である。 （1号機は、2～4号機の待機中の非常用ディーゼル発電機から受電可能）。 ●発電所構内には、全交流電源喪失時に原子炉や使用済燃料プールに注水するための電力を供給する電源車を配備している。
	非常用ディーゼル発電機（B）	待機中	待機中	待機中	待機中	
	高圧炉心スプレイ系非常用ディーゼル発電機	復旧作業中	点検作業中	待機中	待機中	
モニタリングポスト (空間線量率の測定)		・発電所構内に7基（No.1～7）設置しているモニタリングポスト（環境中の放射線量を測定）はすべて稼働しており、測定値に有意な変動はありません。 ※当社ホームページでモニタリングポストの測定値（空間線量率）を公開しています。 http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html				
特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・岩井戸線2号は、新福島変電所における碍子洗浄装置修理作業に伴い、5/28 8:01～17:17、5/29 7:45～18:00(予定)に停止。 ・2号機原子炉格納容器内目視点検（H24/3/6～5/29：完了） 				

2号機原子炉格納容器内の目視点検結果

【点検期間：平成24年3月6日～平成24年5月29日】

【添付資料】



●主な目視点検設備

平成24年5月29日までに、目視点検が完了し、原子炉冷却材の漏えいがなかったこと、格納容器内の各設備・機器・配管等に大きな変形・損傷等はなく、冷温停止機能に影響を及ぼすものはなかったことを確認しました。



①原子炉格納容器入口（所員用エアロック）
（平成24年5月10日撮影）



②原子炉格納容器内（主蒸気逃がし安全弁）
の状況（平成24年4月17日撮影）



③目視点検の様子(その1)
（平成24年5月10日撮影）



④主蒸気隔離弁
（平成24年4月17日撮影）



⑤目視点検の様子(その2)
(平成24年5月10日撮影)



⑥ペDESTAL部(原子炉圧力容器の基礎台)
(平成24年5月10日撮影)

●軽微な影響がみられた主な箇所

冷温停止に至るまでの一時的な高温・高湿環境等により、一部機器表面の塗装面のはがれや錆等、軽微な影響は見られたものの、いずれも冷温停止機能に影響を与えるものではありませんでした。



真空破壊弁表面の錆
(平成24年4月17日撮影)



主蒸気系配管の塗装剥離
(平成24年3月13日撮影)



グレーチングの亜鉛メッキ剥離(白い粉)
(平成24年4月17日撮影)



電動弁開度計アクリルカバーの変色
(平成24年3月13日撮影)